

2-6 発表発信型イベント

研究成果などの発表・発信を専門家以外の聴衆（記者も含めて）に向けて行う場合には、通常の成果発表とは大きく異なる配慮が必要です。というのも、専門家と一般市民とでは、研究成果に対する関心の持ち方が違うためです。伝えようとしている内容水準が聴衆の関心に合致しているか吟味すること、そして聴衆を惹きつける工夫をすることは、効果的な発表・発信イベントを実現するにあたって、特に大切なポイントとなるでしょう。

(1) 一般市民の関心に配慮した内容に

① 生活と研究テーマとの関係を紹介

国土地理院では、小学校高学年から一般を対象に「出前講座」を行っています¹。小学生向けの平易で親しみやすい内容から、一般向けの専門的な内容まで、多様なテーマを用意しています。地図や測量が、実は身近な存在であることを理解してもらうために、生活と地図や測量が密接に関係していることを紹介するようにしています。

提供できるテーマはある程度決まっていますが、事前に申込者と打ち合わせを行い、先方が求める情報により近いものを提供できるように工夫しています。また、参加者にとってなじみのある土地の地図を用いるなど、参加者に理解してもらいやすいような教材を用意しています。

(2) 聴衆を惹きつける工夫・演出

① 芸術・音楽とのコラボレーション

科学技術振興機構（JST）では、研究者による科学講演と音楽家の演奏を行うイベントとして、「科学と音楽の夕べ」を年間3回程度、全国で開催しています。青少年をはじめとする一般の国民（高校生以上）が対象ですが、科学に興味がある人よりも、むしろ音楽に興味がある人が主なターゲット層となっています。テーマは、美（色、音など）に関する科学、脳科学、生命誌、物理学、科学論など、回ごとにさまざまです。例えば、2007年3月に名古屋で開催された会は、「自然美」と「音」について永山國昭教授、大橋力先生にご講演いただき、科学的に解き明かされた邦楽の魅力を、菊地梯子先生（箏）、善養寺恵介先生（尺八）の演奏でお楽しみいただく、という企画でした。

なお、こうしたコラボレーションイベントを行う際には、「科学」「音楽」というそれぞれの要素がうまく融合するよう、企画段階から講演者や演奏者などを交えて検討することが必要となります。

¹ 国土地理院「出前講座」<http://www.gsi.go.jp/DEMAE/demae.htm>

■ 科学技術振興機構「科学と音楽の夕べ」チラシ（2007年3月実施回）



(資料提供) 科学技術振興機構

また、JT 生命誌研究館では、科学の表現方法を「科学の演奏法」と位置づけ、生命誌の考え方に基づいて、科学をさまざまな方法・形態で表現する新たな試みに取り組んでいます。その表現活動の1つとして、科学のテーマについて感性に訴えることを主眼に、サロンコンサート、トークイベント、演劇などとのコラボレーションで伝える試みを実践しています。

② 聴衆との対話を重視

国土地理院の「出前講座」は、「行政の透明性の向上と、国民との対話を重視したコミュニケーション型交通行政の推進」に向けた活動の一環として行われています。一方的な講義形式ではなく、参加者とのコミュニケーションをはかることを重視しています。事前の申込者との打ち合わせを通じてテーマや教材の調整を行うほか、講座中にも、参加者の反応や質疑応答の状況などを見ながら、ニーズに沿うように進行しています。

③ 研究者自身によるわかりやすい説明のほか、著名な研究者の講演も

産業技術総合研究所（産総研）では、毎年恒例の「産総研つくばセンター一般公開」において、「研究成果コーナー」を設け、一般向けの成果発表を行っています。ここでは、新聞やテレビなどで話題となった研究成果を、実際に携わった研究者が自ら解説しています。発表テーマは、研究者から募集しています。各研究者には、一般を対象としているため、わかりやすく説明あるいは実験するように要請しています。

また、特別講演者として著名な科学者を招き、集客につなげています。2006年度はカリフォルニア大学教授の中村修二博士、2005年度は解剖学者の養老孟司氏、2004年度は日本

科学未来館館長の毛利衛氏、2003年度は筑波大学名誉教授の白川英樹博士による講演が行われています。

チェックポイント

- ① 発表・発信イベントのターゲット（対象）は明確ですか。
- ② 発表・発信の内容や解説方法は、ターゲット層の関心・ニーズに合っていますか。
- ③ 学会発表のように、技術的な側面を強調して伝えようとしていませんか。
- ④ 発表側の言いたいことだけを伝える発表内容になっていませんか。
- ⑤ わざわざ話を聞きに来る価値を感じさせる工夫・演出がありますか。
- ⑥ 新しい表現方法の可能性を模索していますか。
- ⑦ 他領域、他分野の研究者や表現者（音楽・芸術活動を含む）との連携の可能性を検討しましたか。
- ⑧ 発表者と聴衆との間で、双方向のコミュニケーションは成立していますか。
- ⑨ イベントのプロモーションは、あらゆる利用可能なルートを通じて行っていますか。
- ⑩ 活動に対する評価を行い、イベントの改善などに役立っていますか。